

王羲之曰く、「書法というものは、錐で砂に画くがごとく、  
印で泥に押印するようにすべきである」

つまりは、藏鋒にして意先筆後にしななければならぬのだ

## 本誌の執筆にあたって

本誌にあたり、自分の書道観や、書道を始めて二〇年以上経った今の自分と書道の関係は一体どうだったのだろうか。

そういう思いを考え、思い起こしました。

私が書道を始めたきっかけは、やんちゃであった私を見かねて、少しでも落ち着いてくれるようにと願ったことだと思います。

いつしかそれは、私の特技となり趣味となり、今では生き甲斐とまで、胸を張っていえるようになりました。

自分のそのとき、そのときの精神が筆を通して、表現されてしまうことに驚きを隠せません。

書道は奥が深い。自分が書道に対する探求、研究がまだまだ足りない。

本誌を執筆していく度にそう実感させられました。

高齢化が進んでいる書道界ですが、未熟な私が書いたこの本をきっかけに書道に興味を持ち、書道の世界に足を踏み入れて頂けたら幸いです。

# 第一部

## 書の基本

- 書道を学ぶ
- 書の五體

# 書道を学ぶ

## ◆はじめに

皆さんは、書道という言葉や言葉を聞くと何を考えますか？

字が達者な人が嗜む趣味と考える方が多いではないでしょうか？ 確かにその考えは間違っています。また、このようにも考えるのではないのでしょうか？

「書道って字が上手くないとできないんですよ？」

確かに、字が上手いことに越したことはありません。しかし、字が上手いというのは書道において、基本的に二の次なのです。大事なのは表現であり、絵画で言えば、タッチよりも絵全体の表現と言えは分かりやすいかと思えます。次に、

「書道って習字とどう違うの？」

書道を学んでいると話すとこのような言葉を問いて出されることがよくあります。そして、義務教育で習字（書写）を学んでいない方は特別な場合を抜きにすれば、ほとんどいないと思います。簡単に言ってしまうえば、習字は**文**字を正しく整えて書くことを目的としており、

表現の仕方などはありません。また、字を正しく整えて書くということであって、字が上手くなるためにするのはないということです。あくまでも、字の書き方、形を覚えるものです。一方、書道はそれに加え、芸術として、文化の理解として、個性美の表現とするものです。また、書道は単一の芸術としてではなく、日本では特に華道や茶道などと一つになることにより輝きを増すわけです。

## ◆書道の精神と役割

さて、書道の良さを綴ってしまいましたが、書道の本質とはなんでしょうか？ 『道』と付くからには柔道や剣道、華道、茶道などの類であるのは明白です。『道』の本質は、学習過程で、人格を練磨し、情操を醇化していくという人間修養・精神修養を目的としてしています。ですから、書道も同様に人間修養・精神修養を基礎とし、その基礎の上に、先に述べた個性美の表現をするというものです。とはいっても、このことをいつも想い、生活している人は殆どいないでしょう。

ですから、自分が想う書道の精神というものは私たちが現代において豊かな文字生活を送っているのだということを一文字一文字再確認し、感謝する所にあると考えています。

さて、書道の役割ですが漢字はその発生以来、目的に従って、正確に能動的に工夫が加えられ、各種の書体が生まりました。その書体こそが、**楷書・行書・草書・隸書・篆書**の五體に分けられ現在まで続いてきた書体です。詳しくは次節に託すとして、この五体により様々な文字生活を我々は送っています。様々な形へと変化をしてきた文字により生活の空間が豊かになっていくのは言うまでもありません。

そして、二千年以上も歴史を持つている書とそれを活用し、命を与えてきた書道は理性的で、美しいだけでなく、見る人の精神をも豊かにする役割があるのではないのでしょうか。

## ◆書道用具について

簡単ではありますが、これまでに書道とはどういうものかというものを記述してきましたが、実際に書道を行うには何が必要なかを紹介し

# 第一部 書の基本

ていいこうと思います。

まず、書道を行う上で毛筆に最低限必要な用具は筆、硯、墨、紙が無くては話になりません。この用具を**文房四宝**と呼びます。他に毛氈と呼ばれる下敷き及び紙を押さえるために必要な文鎮がありますが、実際は無くても無理矢理書こうと思えば書けます。しかし、先の4つ同様に必ず必要な道具の一つと考え、(半紙に二〜六文字)に揃える用具の詳細は、

- 筆……軸径9〜13ミリ、穂長33〜42ミリの筆(中鋒)
- 硯……特に大きさに決まりはありませんが、四五平(135×75)または五三寸(150×90)の規格が一般的
- 墨……松煙墨と油煙墨の二つがあります  
書く字によって使い分けるのベストですが初めての方は墨汁を使った方が良いでしょう
- 紙……初めての時は見慣れている半紙がよいでしょう  
機械漉きと手漉きがあり、大量に作られているのは機械漉きが多く練習用には最適です
- その他……下敷き・文鎮はサイズにあったものを用いる

自分の経験からすると、筆と紙選びが少々やっかいです。どのような書をしたいか、どのような文字を書きたいのかによって、筆や紙を選ぶ必要があります。なぜならば、使われている毛により書く字の印象も変わってくるからです。筆を選ぶ際には鋭く、しなやかな字を書く場合コリンスキー・山馬や、これよりも太く書きたい場合は赤天尾を選びます。これらは一般的に楷書を書くときなどに選びます。柔らかく、温かみを持たせたい行書は草書では、貂や羊毛を選びます。

ただし、これらの基準はあくまでも一般的な話ですので、自分が書きたい字に合わせて筆を選ぶようにしましょう。先に挙げた筆を一見で大体判断するには、コリンスキー・山馬、赤天尾は茶色い毛をしており、バネがあり反力が強い毛です。貂や羊毛はコリンスキー・山馬よりも柔らかく毛が白いものが多いです。ただし貂はやや茶色い毛を使用しているため、初めてでは山馬との違いが触らない限りわからないとおもいますので注意してください。

筆の堅さは大雑把に分ければ、硬い順に赤天尾、コリンスキー・山馬、貂、羊毛です。穂長が軸径の四倍程度を中鋒、それよりも比率の大きいものが長鋒、小さいものを短鋒となります。下図を参照して下さい。

